

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0873900435
法人名	社会福祉法人 廣山会
事業所名	認知症グループホーム プルミエールひたち野
所在地 (電話番号)	茨城県かすみがうら市上土田330-9・10 (電話) 0299-59-0707

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	15人, 非常勤 7人, 常勤換算 19.4人

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月25日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	10名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.9歳	最低	73歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 宇野歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の理念に地域貢献を掲げて地域との連携を大切にしており、ホームの様々な行事には常に地域の方々が多数参加し、地域の行事にも招待される等地域との親しい関係作りの出来ているホームである。

ホームは果樹園や木々に囲まれた高台にあり、四季折々の風景を楽しめ、変化にとんだ散歩コースが整備されており、天気の良い日には利用者それぞれが気に入ったコースを選んで散歩を楽しんでいる。ホーム内でも居室・共用空間共に利用者一人ひとりがその人らしく過ごせるようにと、職員の心を込めた配慮が随所に見られた。

管理者・職員は専門職としての意識も高く、利用者の尊厳を守るケア等について、常に学ぶ姿勢をもち積極的に研修に参加し、受講した研修は全職員が共有できるような取り組みをしており、お互いにケアの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を踏まえて、運営推進会議に向けた取り組みが進められ、今回の調査に於いては既に2回の運営推進会議が開催されていた。また介護計画の見直しについてもモニタリング用紙を作成し、計画に添った評価を実施していた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心にて、職員一人ひとりが日々のケアを振り返りながら、それぞれの気づきを反映させた自己評価票を作成していた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームからの働きかけを行い、市の職員や地域住民の参加を得て2回の運営推進会議を開催している。現在はホームについての理解を深めてもらう取り組みが中心ではあるが、今後年6回の運営推進会議を開催してホームのサービスの質を高めていくための意見等を積極的に取り入れていく事としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームを訪問した際には利用者の日々の様子を伝えながら、気軽に何でも話し合える雰囲気作りを努めている。また家族の意見・苦情については、受付担当者や解決責任者を定めて、何時でも受付を行い、解決に向けては全職員で改善に向けた検討を行い、結果を家族に伝え、全職員で再発防止に取り組むシステムをつくっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会や文化祭・小学校の運動会等の地域の行事に参加すると共に、地域の一人として利用者の状態に応じて地域の一斉清掃や地区の草刈等に参加している。またホームで行われる餅つき会・防災訓練等の様々なイベントにも近隣の住民や老人クラブの方々が多数参加して利用者とは交流をもっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域貢献を謳っている法人の理念を踏まえて、地域の人々と深く関りながら利用者一人ひとりがその人らしく毎日を過ごせるような支援を目指して、全職員が検討してホームの理念を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践する為に、日々の活動の中で具体的な目標を決め、毎月の全体会議で職員各人が目標に対する達成状況を報告・評価するシステムをつくっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や小学校運動会、文化祭への参加と共に、年4回の地域一斉清掃、地区の草刈等への参加をとおして、地元との交流を深めている。また、ホームで行われるイベントにも近隣の方々や地元老人クラブの方々が多数参加しやすいように様々な工夫をして、地域との交流に積極的に取り組んでおり、成果を挙げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員共に、評価の意義を十分に理解しており、前回の評価結果を踏まえて、管理者・職員それぞれがサービスの質の向上を目指して真剣に取り組み、多くの成果を挙げている。また、今回の自己評価に際しても、職員一人ひとりがより質の高いケアを目指して、日々のケアについての取り組みを振り返りながら丁寧に作成していた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を実施する事としている。既に地域の住民や市の職員の参加を得て2回の推進会議を実施している。現在のところ地域住民にホームの実態を知ってもらう取り組みを中心に行っているが、今後は地域の方々の意見をサービスの質の向上のために取り入れていく事を考えた運営推進会議を計画している。		

茨城県 認知症グループホームプルミエールひたち野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの責任者は地域ケア会議のメンバーとして、また介護支援専門員は在宅介護サービス担当者会議等に参加して、市担当者との意見交換を活発に行っている。さらに市職員の参加を得て事例検討会を開催してサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、写真を送付して利用者の近況報告をしている。また面会時には日頃の暮らしぶりを報告したり、主治医の所見を示しながら健康状態の報告もしている。家族が面会に来やすいようにホームの行事カレンダーを送付する等の取り組みもしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置や受付担当者を定めて、利用者や家族の意見・不満・苦情を積極的に伝えられるようにしている。また解決にむけては、解決責任者を明確にして、全職員で解決に向けた取り組みをするシステムができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動による利用者への影響について十分に承知しており、法人内の異動やホーム内のユニット間異動も行わず利用者が安心して暮らせるように職員の異動には十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて外部・内部研修の年間計画を立てパートの職員も含めて多くの職員が受講できるようにしている。各職員の希望する研修が受講できるような取り組みもしている。受講した研修は、報告書を作成し報告会を実施すると共に報告書は全職員に配布されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特別養護老人ホームで経営するグループホーム同士の交流を通して様々な情報を得たり、老人福祉協議会で主催する研修等で知り合ったグループホームの職員との交流を深め、常にサービスの質の向上を目指して取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や居宅の介護支援専門員を通して利用希望があった場合は、ホームの状況が受け入れ可能な場合には1泊の体験利用をしていただき、また法人内の通所や短期入所の利用者の場合は利用期間中にホームを訪れていただき、利用希望者・利用者・職員の状況を見ながら、家族を含めてそれぞれが納得してから利用を開始する取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員共に利用者は人生の先輩である事を意識しており、利用者から学ぶ姿勢をもって接している。特に新規の利用者には丁寧な関わりを心がけ不安や混乱の解消に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に担当職員がこれまでの暮らしぶり等を聞き取り記録してある。ケア会議では各職員が関わりの中から情報を得て、意見として出し合っているが、利用者一人ひとりの意見や希望が具体的に記録されていない。	○	日頃から丁寧な関わりをもっており、職員は利用者一人ひとりの情報を十分に把握しているので、これを記録として残し、職員間で情報を共有できるように、記録用紙や記録方法等の工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で把握した本人や家族の意向を取り入れ、全職員の気づきや意見を反映させながら介護計画を作成しており、家族の同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しに当たっては、毎月ユニット毎にカンファレンスを行い、利用者の状態の変化に合わせた計画の見直しを行っている。定期的な見直しについてはモニタリング用紙を用いて全職員で検討している。		モニタリング用紙への記録をより具体的にするために、介護計画を意識した個別の記録ができるように、全職員で検討する事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの様々な機能を十分に活用して、本人や家族の要望に応じて、利用者の通院支援、家族の面会時の送迎、緊急時の受診等柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間何時でも受診できる協力病院があり、看護師とは利用者の健康について常に相談できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、終末期の看取りは考えていないが、重度化してきた利用者については家族の意向を確認し、かかりつけ医とも話し合いをしながらケアに積極的に取り組んでいる。入院や特別養護老人ホームの利用等については、本人・家族が納得して選択できるような支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員共に日々の声かけ、介助において利用者の尊厳やプライバシーを損ねることのないよう十分な配慮ができています。また初任者教育では利用者の「尊厳の遵守」「プライバシー保護」の教育を徹底して行っている。個人情報の取り扱いについても同意書を得て、その範囲を定め、守っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、自分のペースでその人らしく暮らしていけるようアンケートで各人の希望を聞き取り、クラブ・レクリエーション等選択できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の準備や介助等、利用者の状態に合わせて生き生きと対応しており、一部の利用者間では笑顔で会話している様子も見られた。しかし、食事介助の必要な利用者も多く、利用者と職員が会話しながら食事を楽しむ雰囲気をつくるまでには至っていない。	○	食事介助をしながらもゆったりとした雰囲気の中で、職員を含めて利用者が共に会話しながら食事を楽しむことができるよう、テーブルの配置等、話しやすい雰囲気をつくるための工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後は何時でも好みの時間に入浴できるようになっている。また、利用者の体調に合わせて清拭・フットケア等の実施や隣接する特別養護老人ホームで機械浴ができるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態に応じて洗濯物たたみ・食器洗い・花の水遣り・野菜の栽培や収穫などの役割を持ちながらも、ゆっくりと新聞を読んだり、ものづくりをしたり、散歩をしたりと、利用者一人ひとりが日常生活をその人らしく過ごせるような支援できている。また月2回のお茶会等も取り入れて日々の生活に特別な楽しみごとを設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの環境を十分に活かして、利用者の体力に応じたコースを選び天気の良い日には毎日のように散歩を楽しんでいる。また利用者の希望によっては、隣接する特別養護老人ホームのディサービスを利用する友人を訪ねたり、買物外出等の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の勤務体制により午後の3時間は施錠をしない事や外からの訪問者には何時でも入れるような工夫をしているが、ホームの周囲が森林になっており、近くに人家が少なく、急な坂道・足元が不安定で危険な場所等が多い為に玄関は職員の操作で開けるようになっている。	○	危険な場所にフェンスを設置する事など職員は様々なアイデアを出し合って、広い敷地を活用して戸外に自由に出入できるように工夫している。日中玄関に鍵をかけないようにするためにもこれらの工夫をさらに進められることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員会を設置して、消防署とも連携を取りながら、具体的な目標を定めて夜間訓練も実施している。災害時の食料・水等の備蓄も十分にしており、地域住民も含めて炊き出しの訓練・人命救助の訓練等も行い、避難場所の特定もしっかり行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立はカロリー計算が丁寧にしてあり、職員は食事や水分の摂取量をチェックして常に適量摂取に努めると共に、毎月の体重測定で利用者一人ひとりの栄養摂取状況を確認している。また利用者の急激な体調変化に対してもマニュアルを用意して水分補給等何時でも対応できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには観葉植物が随所に置かれ、高齢者が昔から親しんでいたような家具が配置されており、ゆったりとした雰囲気がある。また共用空間には、気のあった利用者同士がくつろいだり、面会の家族がゆっくり過ごせるようにテーブルや椅子が用意されている。トイレ等の共用の場所も清潔に整えられている。		壁の様々な飾り物や掲示物は、居室に飾る事がふさわしい物か、共用の場所に飾るのがふさわしい物か、利用者・家族・職員で検討してみる事が望まれる。また季節を感じさせる掲示物や飾り物は取り外しの時期を定めるなどの取り組みが期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が大切にしてきた物や使い慣れた家具等が置かれ、それぞれに落ち着いた雰囲気があり、入居前の生活を大切に考えた居室づくりへの配慮が感じられた。		